

日本の中心工業地帯をまとめて 何大工業地帯と言った？

各世代の常識

30代 四大工業地帯

10代 三大工業地帯

40代 四大工業地帯

20代 四大工業地帯

50代 四大工業地帯

まずは
復習！

「工業地帯」は、多くの工場施設が集積する地域である「工業地域」と定義としては同義ですが、規模が大きく、生産高がほかにくらべて高い地域のことをさすと一般的に考えられています。日本では歴史的に京浜工業地帯、中京工業地帯、阪神工業地帯、そして北九州工業地帯をさし、これらを「四大工業地帯」と教科書などでは表記してきました。

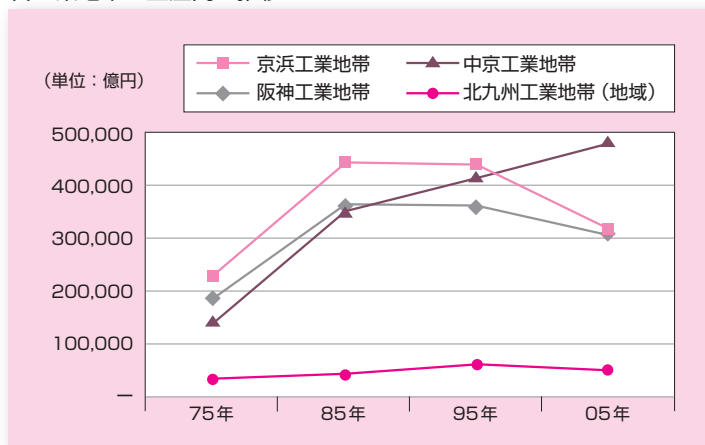
しかし、1980年代以降、京葉工業地域や関東内陸工業地域などの新興の工業地域の発達や、北九州工業地帯の生産高の減少などにより、教科書における工業地帯の記述に変化が見られるようになりました。

主要工業地帯の生産高の変化

(単位：10億円)

工業地帯	1975年	1985年	1995年	2005年
京浜工業地帯	23,539	44,611	44,416	30,600
中京工業地帯	14,208	34,058	41,223	49,219
阪神工業地帯	19,733	35,508	35,822	30,125
北九州工業地帯(地域)	3,551	6,564	7,875	7,799

各工業地帯の生産高の推移



※日本国勢図会(財団法人矢野恒太記念会)をもとに作成



●四大工業地帯から三大工業地帯へ

工業地域における主要な数字は生産高の大小です。最近、この数字が変化したことで、歴史的背景から「四大工業地帯」と称されてきた工業地帯の記述に変化が生じています。

近年、北九州工業地帯の生産高は主要な工業地域よりも低く、

教科書では京浜、中京、阪神をさして「三大工業地帯」と記し、北九州は「北九州工業地域」と記されるようになりました。

近年の北九州工業地域の生産高は、工業地域トップの関東内陸工業地域の3分の1以下であり、歴史的背景のみに依拠して工業地帯を名乗り続けることは困難になりました。

●台頭する中京工業地帯

長く日本最大の工業地帯は京浜工業地帯であると記されてきましたが、近年の中京工業地帯の成長は著しく、**現在日本でもっとも生産高の多い工業地帯は中京工業地帯となっています。**近年の教科書でも、中京工業地帯を生産高において最大の工業地帯であると記述しています。

この中京工業地帯の成長を支えるもっとも大きな要因は、自動車生産台数で世界2位（2007年時点）を誇るトヨタの存在です。各工業地帯・地域は主要産業の興亡とともにその生産高を変化させています。

教科書における「工業地帯」の数

年	〇〇大工業地帯と表記される数字	工業地帯
1970	4	京浜工業地帯・中京工業地帯・ 阪神工業地帯・北九州工業地帯
1975		
1980		
1985		
1990		
1995		
2000	3	京浜工業地帯・中京工業地帯・ 阪神工業地帯
2005		
2008		



雑学豆知識

成長する工業地帯・地域には、その地域を代表する業種や、日本を代表する企業が存在します。現在、世界でもっとも日本企業の勢いがある業種の1つに自動車産業が挙げられます。かつてはビック3と呼ばれたアメリカの3大自動車メーカーであるGM、フォード、クライスラーも現在では守勢に回り、トヨタはGMに次いで世界2位の生産台数を誇ります。また、グループ化していないために数字上の生産台数では下位となりますが、ホンダも北米市場を中心に好調であり、ヤマハ、カワサキもバイク市場では世界のトップ企業となっています。

ほかにも、北海道にある道央工業地域の乳製品、東海工業地域の模型（タミヤ）や楽器（ヤマハ・カワイ）など、その地域の特色となる業種があります。

主要自動車・バイク企業と工業地帯・地域

工業地帯・地域名	自動車・バイク企業
中京工業地帯	トヨタ自動車・三菱自動車工業
京浜工業地帯	日産自動車・いすゞ自動車
阪神工業地帯	ダイハツ工業・ カワサキモーターズジャパン
関東内陸工業地域	富士重工業・本田技研工業
瀬戸内工業地域	マツダ
東海工業地域	ヤマハ発動機・本田技研工業